

令和7年11月11日

土佐国道事務所

ICT 施工 Stage II と遠隔施工の現場見学会を開催！

～地元小学生が最新の道路工事を体験～

○国土交通省では、i-Construction2.0※1を推進しており、建設現場においてICTを積極的に活用しています。（※1：別紙1参照）

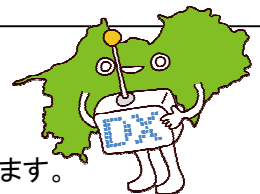
○土佐国道事務所が建設を進めている南^{なんこく}国^{あき}安芸道路において、施工データを活用し作業の効率化・省人化を目指す『ICT 施工 Stage II ※2』と遠隔地から建設機械を操作する『遠隔施工※3』を試行しています。（※2：別紙2参照、※3：別紙3参照）

○今回、工事現場周辺の^{あき}安芸市^{しりつ}立穴内^{あなない}小学校5・6年生（10人）を現場に招き、現場見学会を開催します。

1. 日 時：令和7年11月18日（火）9:50～10:50

※ 小雨の場合は開催しますが、大雨の場合は中止します。

※ 中止の場合は、当日9時に土佐国道事務所 HP 及び X(旧 Twitter)にてお知らせします。



2. 場 所：南^{なんこく}国^{あき}安芸道路^{あなない}穴内^{ひがし}東^{こうち}地区^{あき}工事現場^{つくも}（高知県安芸市津久茂）

※ 詳細は「別紙4」をご参照下さい。

※ 取材については、令和7年11月14日（金）12時までに「別紙5」にて申込みをお願いします。

土佐国道事務所ホームページ <https://www.skr.mlit.go.jp/tosakoku/>

X(旧 Twitter)情報 https://twitter.com/mlit_tosa/



ホームページ



X(旧 Twitter)

本施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】の取組に関連します。

また、WISNET2050の実現に向けた政策コンセプトに該当します。



「現場へ行こう！」とは四国地方整備局管内の現場・施設を気軽に見学していただくための取り組みです。管内の“今だけ”と“わくわく体験のモト”が詰まっています。

「現場へ行こう！」サイト



（発表先）高知県政記者クラブ

問い合わせ先（◎主な問い合わせ先）

国土交通省 四国地方整備局 土佐国道事務所

電話（代表）088-884-0359

副所長（改築） 雑賀 光（さいか ひかる） （内線）204

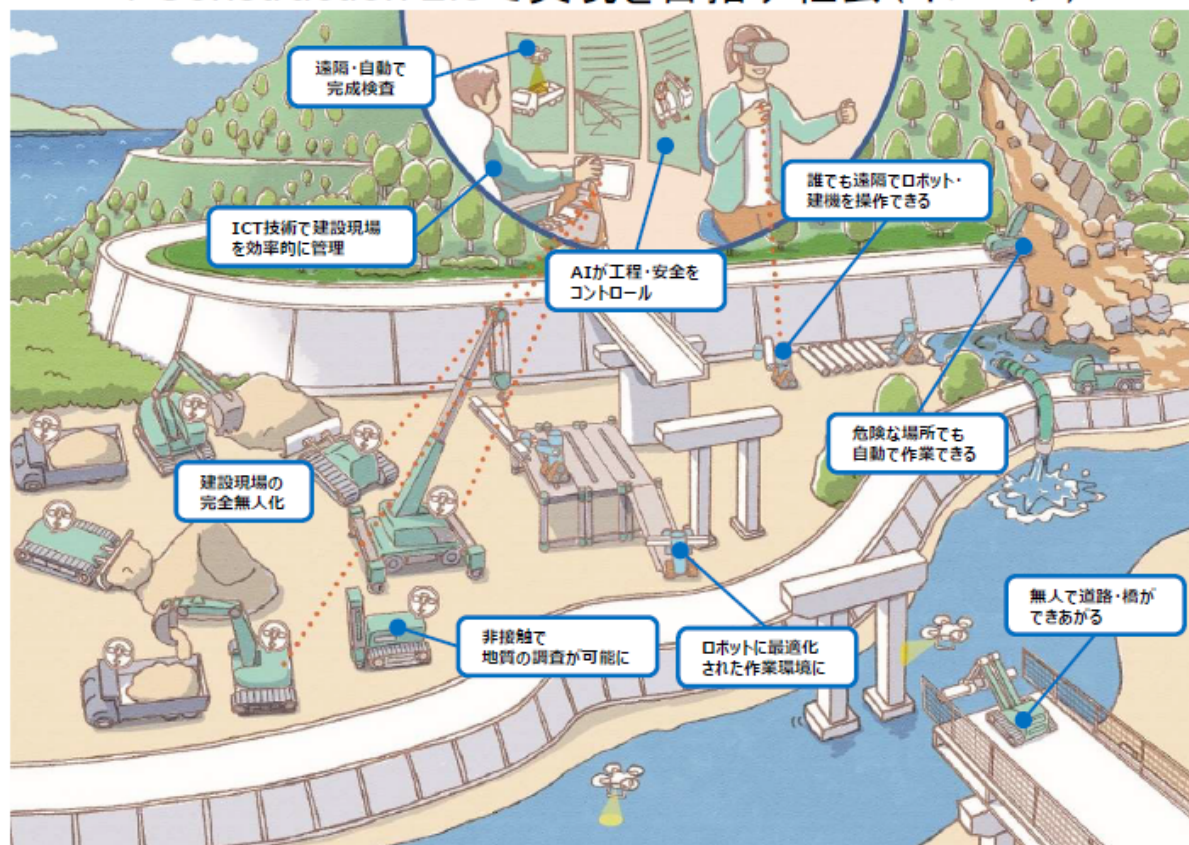
◎工務課長 藤本 大輔（ふじもと だいすけ） （内線）411



土佐国道事務所（とさこく）

- 建設現場の生産性向上の取組であるi-Constructionは、2040年度までの建設現場のオートメーション化の実現に向け、i-Construction 2.0として取組を深化。
- デジタル技術を最大限活用し、少ない人数で、安全に、快適な環境で働く生産性の高い建設現場を実現。
- 建設現場で働く一人ひとりの生産量や付加価値を向上し、国民生活や経済活動の基盤となるインフラを守り続ける。

i-Construction 2.0で実現を目指す社会（イメージ）



第5期技術基本計画を基に一部修正

i-Construction 2.0 で2040年度までに 実現する目標

省人化

- ・人口減少下においても持続可能なインフラ整備・維持管理ができる体制を目指す。
- ・2040年度までに少なくとも省人化3割、すなわち生産性1.5倍を目指す。

安全確保

- ・建設現場の死亡事故を削減。

働き方改革・新3K

- ・屋外作業のリモート化・オフサイト化。

i-Construction 2.0: 建設現場のオートメーション化に向けた取組
(インフラDXアクションプランの建設現場における取組)

ICT施工Stage IIとは、建設現場における建設機械の位置情報や稼働状況、施工履歴など様々な情報(施工データ)をリアルタイムに集約し活用することで、建設現場のデジタル化・見える化を進めるとともに、必要な資機材配置や作業工程などを見直すことで作業の効率化を図り、更なる省人化を目指す取り組みです。

【事例①】

建設機械やダンプの稼働状況をリアルタイム把握し、土量配分マネジメントに活用

※中国地方整備局松江国道事務所 実施事例

掘削工事



盛土工事



運搬



【事例②】

AIカメラによる映像データを活用し、資機材の予実管理やダンプのリアルタイム入退管理を実施

※令和5年度インフラDX大賞受賞

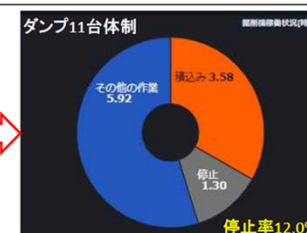
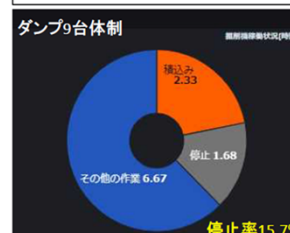


AIカメラによるダンプのリアルタイム入退管理

掘削重機の作業を可視化し、資機材の予実管理



○作業着手後の日数経過に伴い、BH停止時間が増加していることを確認
○作業手順定着に伴うダンプ待ちと判断し、**運搬台数を増(9台→11台)**



運搬可能土砂量

改善前:
5m³ × 9台 × 8巡 = 360m³/日
改善後:
5m³ × 11台 × 8巡 = 440m³/日

↓
台数最適化で日施工量22%改善

重機稼働状況(ダンプ増台前)

重機稼働状況(ダンプ増台後)

- 遠隔施工とは、立ち入りの制限措置を講じた施工現場において遠隔地から建設機械を操作し施工するもの。
- 遠隔施工では、建設機械のオペレータの安全性向上や労働環境改善をはじめ、多様な人材が働ける環境の構築を目指す。

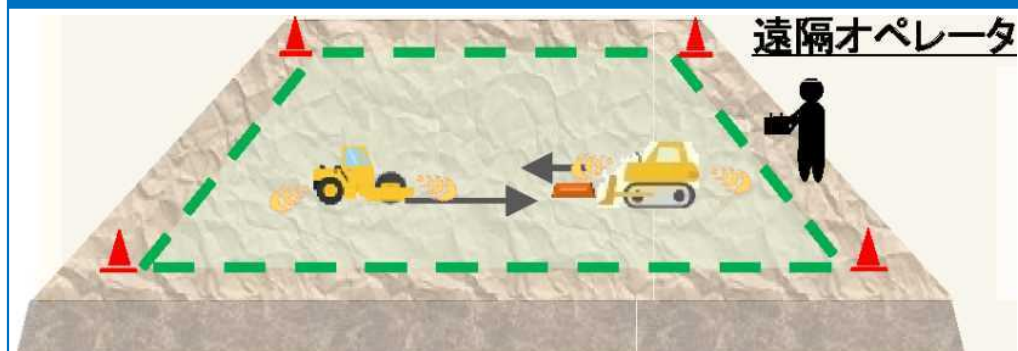


■実施内容

- ・遠隔施工による掘削及び法面整形
⇒ネットワークにより現場事務所（操作室）とリンクした現場の遠隔施工機械（バックホウ）を操作し、掘削及び法面整形を行う。

現場事務所から遠隔操作が可能！
遠隔施工を体験してみよう！！

遠隔施工のイメージ



- ・オペレータは自宅や事務所から建設機械を操作するため、危険作業等による労働災害を防止（安全性の向上）するとともに、快適な環境下で施工作業が可能となる（労働環境改善）
- ・1人のオペレータが複数現場を兼任することや、都心部のオペレータが地方部の施工を実施することが可能となる。（多様な人材が働ける環境）

遠隔施工の体験



- ※ お車で参加の方は、交通誘導員の指示により**駐車場**へ駐車願います。
- ※ 当日は、現場見学会場にお越しになられた方から**受付**までお越し下さい。
- ※ 見学の際には、運動靴、動きやすい服装にてお越し下さい。
- ※ ヘルメットは現場に用意しております。



国土交通省 四国地方整備局

土佐国道事務所 工務課 宛

申込先 : (E-mail) skr-tosaka40@mlit.go.jp

ICT施工Stage II と遠隔施工の現場見学会を開催！
～地元小学生が最新の道路工事を体験～

取 材 申 込 書

必要事項をご記入のうえ、令和7年11月14日(金)12時までにメールにてお申込みください。

貴 社 名	
連 絡 先	TEL: E-mail:
取 材 者 (代 表 者) 氏 名	
取材者人数	人
駐 車 台 数	台
連絡事項等	

<留意事項>

- ・報道関係の方の取材・撮影は、主催者の指示に従うようご協力をお願いします。